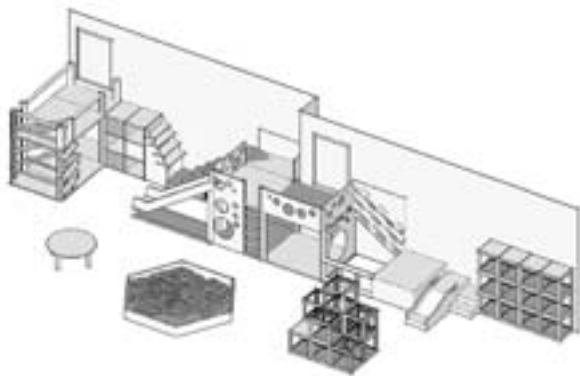


## 乳幼児の保育環境さらに充実

# 子育て応援！「ももんがの家」元気で育つちびっ子の殿堂で

1月下旬、幼児センター「ももんがの家」が大きく、広くなって装い新たなお目見えします。町を担う新たな世代の子供たちが伸び伸びと育つよう、零歳から2歳までの乳幼児保育、一時保育を特に強化。働くお母さんにとっても頼もしい施設として、全国トップレベルの幼保一元化機能がさらに充実して、ちびっ子の殿堂になります。2月上旬、子供たちは新しい施設にお引越します。



▲ボール砂場、ジャングルジム、滑り台などを組み合わせた木の複合大型遊具(全体完成予想の一部)

2歳児の増加とともに、狭くなっていた保育室スペースは1・3倍に広がり、それぞれ十分な保育スペースを部屋割りすることができるようになります。

1歳未満児の長時間保育は、昨年から3人増の9人定員となるなど、幼保一元化の取り組みは、職員を増員して環境を充実させてきました(昨年4月から6人増の51人、うち保育士35人)。しかし現在もなお入園希望の待機が出ている状態です。そのため保育士の数をさらに充実し、4月以降、零歳児受け入れなどの拡大を可能な限り検討します。

保育面積の大幅増と相まって、町内の木工場、木工クラフト作家が製作したぬくもりある木の大型遊具が新たに導入されることも今増築の特徴です。

木の地肌を生かしたぬくもりある遊具に触れて遊び、豊かな感性が自然に育まれてほしいもの。遊びに創造性が加わり、行動の質も飛躍的に高まるこ

とが期待されます。これから子育てを迎える世代のニーズにも一層こたえられる保育環境が充実することになりました。

また圧倒的に足りなかったトイレの便器の数は4倍になり、4器しか便器がなかった零歳から2歳児までのトイレ環境は、特に大きく改善されることになりました。今後は年長児クラス(4、5歳児70人)のトイレ環境改善も検討したいと考えています。

### 年間約1千件のニーズ、一時保育も専用教室充実

年々増えているもう1つのニーズは一時保育。零歳児保育とともに、計画的な保育士配置がなかなか追いつかない性質のニーズです。

一時保育の利用は、子育て専門のお母さん世帯で利用する件数が急激に増え、近年3カ年ではその前に比べて2

倍以上、年間延べ500人以上になっています。町では、次代を担う子供たちを育てはぐくむ環境の充実を図るため、新たな専用教室(49平方メートル)を設けました。

一時保育に特徴的なのは、1人に対して保育士1人が付きつ切りのケースが多いことです。

日ごろ大勢のお友だちと一緒に遊ぶ機会が少ない、大勢のお友だちと一緒に時間を過ごすことが不得手な乳幼児や、座って給食を食べる習慣、お昼寝をする習慣がないなど、付きつ切り保育が必要なお子さんを預かるケースも多く、保育基準を上回る保育士の配置が必要になってくるのです。

今後も一時保育のニーズは高まることと予想されます。町では、預かり時間の自由度を検討するなど、町中に元気な歓声が響く子育て環境を充実させるため今後とも保育環境の充実を図ることにしています。

総事業費約2億円で完成する「ももんがの家」新増築棟は、鉄筋コンクリート作り平屋建て延べ約670平方メートルから2歳児までの保育環境の強化を図るのが狙いです。

年々入園希望が増えている零、1、